

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウィズキャリアサポートセンター		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～ R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)
○従業者評価実施期間	R8年1月1日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人の中で、児童発達支援から就労支援まで幅広い年齢の支援を行っています。当センターでは、地域の学校に在籍している子どもを主に利用してもらい、卒業後に働くことを目指して、社会性やコミュニケーションスキル等を活動を通して身につけていけるよう支援しています。	年齢別に目的を明確化し、小中学生では他者との関わり方、感情コントロール等人間関係の構築を遊びの中で学び、高校生では、実際の企業にて体験実習や見学を通して社会的体験を積み上げていけるようプログラムを作成しています。	ご協力いただける企業を増やし、より幅広い分野での体験ができるよう地域資源の開拓を目指します。また、法人内に障害者就業・生活支援センターがあるため、情報提供や講座の依頼等より連携を深めてプログラムの工夫をしていきます。
2	地域の学校に在籍されている方において、中学・高校と年齢が上がるにつれて、他の利用者との年齢差や活動内容が合わなくなってくる傾向にあります。その中で主な利用者が中学生のため、同じ悩みを持つ方が多く居り、学校とは違うコミュニティを形成することができます。	「お預かり」ではなく、必ず利用者ご本人の意思を確認し、ご利用いただいています。また、センターを利用するに当たって、利用する中で何を習得したいのか、利用者ご本人に目標を決めてもらい、そのためにどうサポートしてほしいのか・していくのかを検討しています。	同じ年齢層でも、楽しく遊ぶ仲間を作りたい人、静かな環境で相談したい人・落ち着いて過ごしたい人等によってニーズがあります。可能な限り1人ひとりに合わせたサポートができるよう利用曜日の調整や、信頼関係の形成をし、想いの傾聴に努めたいです。
3	関係機関との連携及び関係者における一貫した支援ができるよう積極的な会議等への参加をしています。	支援会議には基本的に参加させてもらっています。課題、次に向けた支援を検討し、その結果をお伝えする機会となっていますので、情報共有だけではなく、次につながるようPDCAサイクルを意識した会議となるよう努めています。	学校や病院によっては関係者での支援会議が一切行われないケースがあります。保護者を通して情報提供や必要に応じて直接連絡をし、情報の共有を行っています。在籍している機関によって差がないよう努めたいです。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動する場所が1部屋であり、少人数では良いですが、内容によっては10人以上(スタッフ含む)となる場合があり、窮屈に感じることがあります。	基本的に室内が狭いため、体を動かす活動等には不向きです。運動を希望する方や一人で静かに過ごしたいと希望する方にも現状としてすぐに対応できない場合があります。	事業所の引っ越しを予定しています。日中は大人の福祉サービスを提供していますが、夕方であれば活動スペースとして十分に確保できると思われれます。長野駅経由の利用者に関しては、送迎の仕方等を再検討していきます。
2	現状として、地域の児童クラブや児童センター等の交流会・保護者の交流会は設けておりません。	現在利用されている方の8割が地域の学校に在籍されている方です。そのため、利用者自身も地域との交流を希望する声はこれまでにありませんでした。	より多くの方との関わりを持つことは利用者自身の力にもなると思いますが、学校への苦手意識を持つため、利用されている方もいるため、今後計画していくに当たっては、交流会の開催自体をアンケート等で調査を行い、希望があれば検討をしていきます。
3	現在小学生の利用者が2名のみとなっています。幅広い人と関わり、その中で年齢の離れた人との対人関係について学べると良いです。	事業所の強みとして挙げた、ある程度成長してきた時に福祉から離れてしまう方や近い年齢の人と一緒に過ごせる新しい居場所として活動してきたため、これまでに低学年向けにプログラムを作成していませんでした。	令和7年度では、同じ場所での活動や余暇時間を過ごすことで静かな環境を望む中高生からは低年齢の利用者の声など不満の声が聞かれました。次年度に向けて曜日別に活動を分けて、落ち着いて過ごすことができるよう配慮します。